

[宮崎演習林]C. 自然林保全区の山地ゲート新設

汰木, 達郎
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

荒上, 和利
九州大学農学部林学科 : 助手

井上, 晋
九州大学農学部附属演習林 : 助手

椎葉, 康喜
九州大学農学部附属演習林 : 林業手

<https://doi.org/10.15017/1462312>

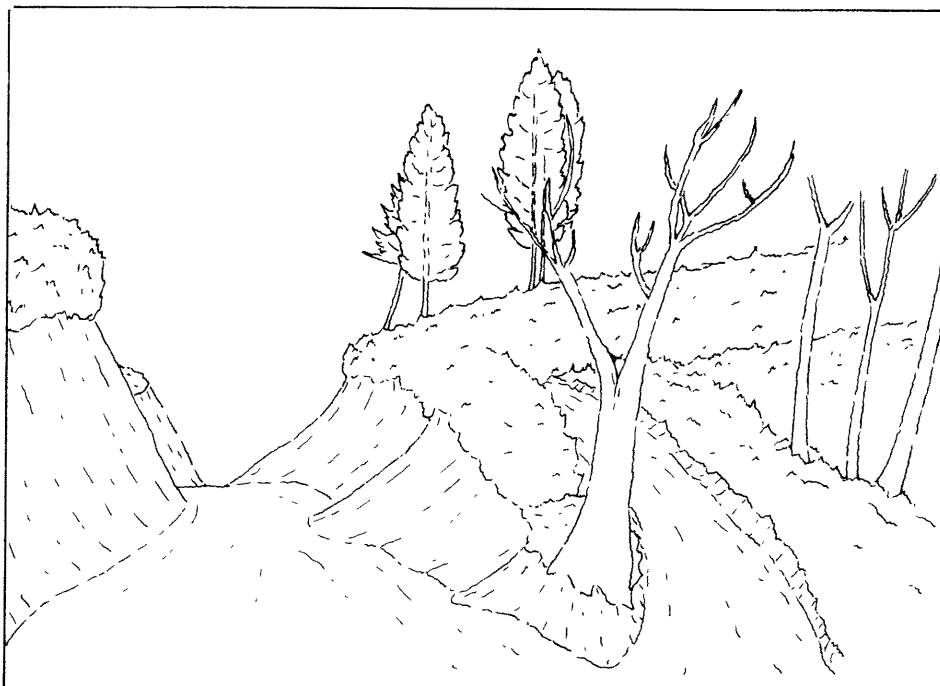
出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和49年度, pp.108-111, 1975. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



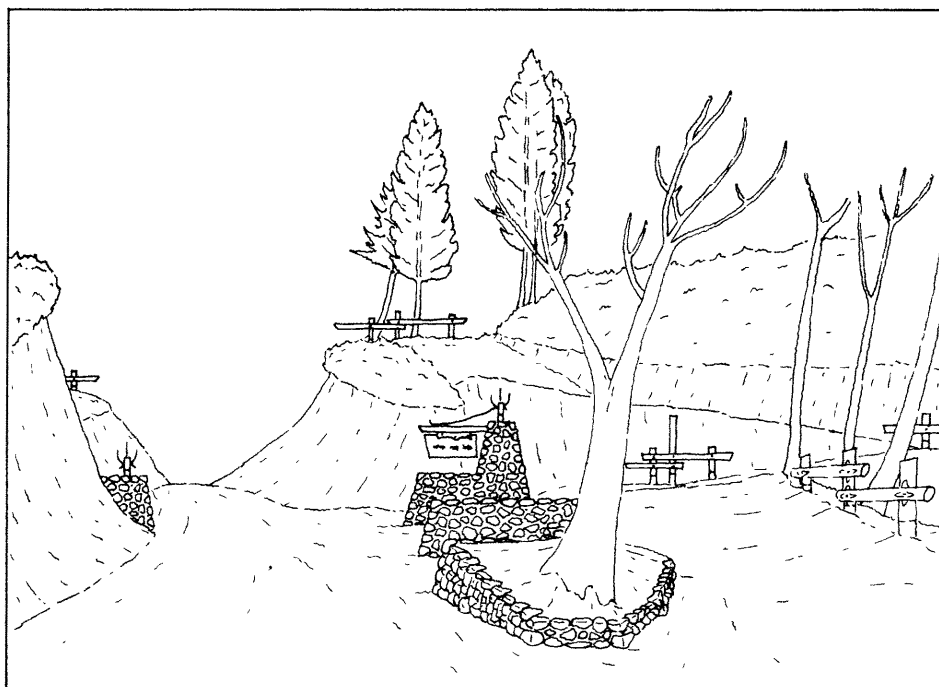
C. 自然林保全区の山地ゲート新設

1. 宮崎地方演習林は31～35林班に厳正保全林を含む約650haの多目的総合保全研究林を設定している。本年度は保全林地区の附属施設の1つとして保全区内を通る林道の出入口34林班尾崎峠と36林班ベントウ谷入口に2基の山地ゲートを新設した。
2. 設計は本学演習林，風致工学設計研究室加藤退介教授によるものである。その山にふさわしい素朴で重厚な意匠はすでに完成している学生宿舎の建築および修景の様式との関連が充分考慮されたものである。尾崎峠のゲート（上のゲート）は石積のゲートと丸太の柵から構成されており，36林班のゲート（下のゲート）は石積だけのゲートである。特に上のゲートの設計では道路脇のミズナラ大径木の石積による保護，保全が考慮されている。
3. 材料の石，土および名板はすべて現地のものを用いた。石については直径10～40cmの川石を使用した。また階段の2段目までの三和土の部分は現場土に砂とセメントを7：2：1の割合に混合した。名板の材は本演習林産のミズナラの厚さ10cmの板を使用した。しかし丸太の柵の材については腐朽の点を考慮してヒノキ丸太で末口直径20cm以上のものを購入して用いた。
4. 施工は昭和50年3月中旬～4月下旬にかけて演習林の職員の手によってすべて行なわれた。上のゲート構築に先立ってブルドーザーによる地形の改変がなされ広場が造成された。下のゲートの構築に当っては地形の造成は行なわれなかった。図1は上のゲート構築前後の模式図，図2は山地ゲート見取図，図3は上のゲート平面図を示す。

図-1 上のゲート構築前と後の模式図



(A) ゲート構築前の地形



(B) ゲート構築後の地形および石積ゲートと柵の配置

図一2 山地ゲート見取図

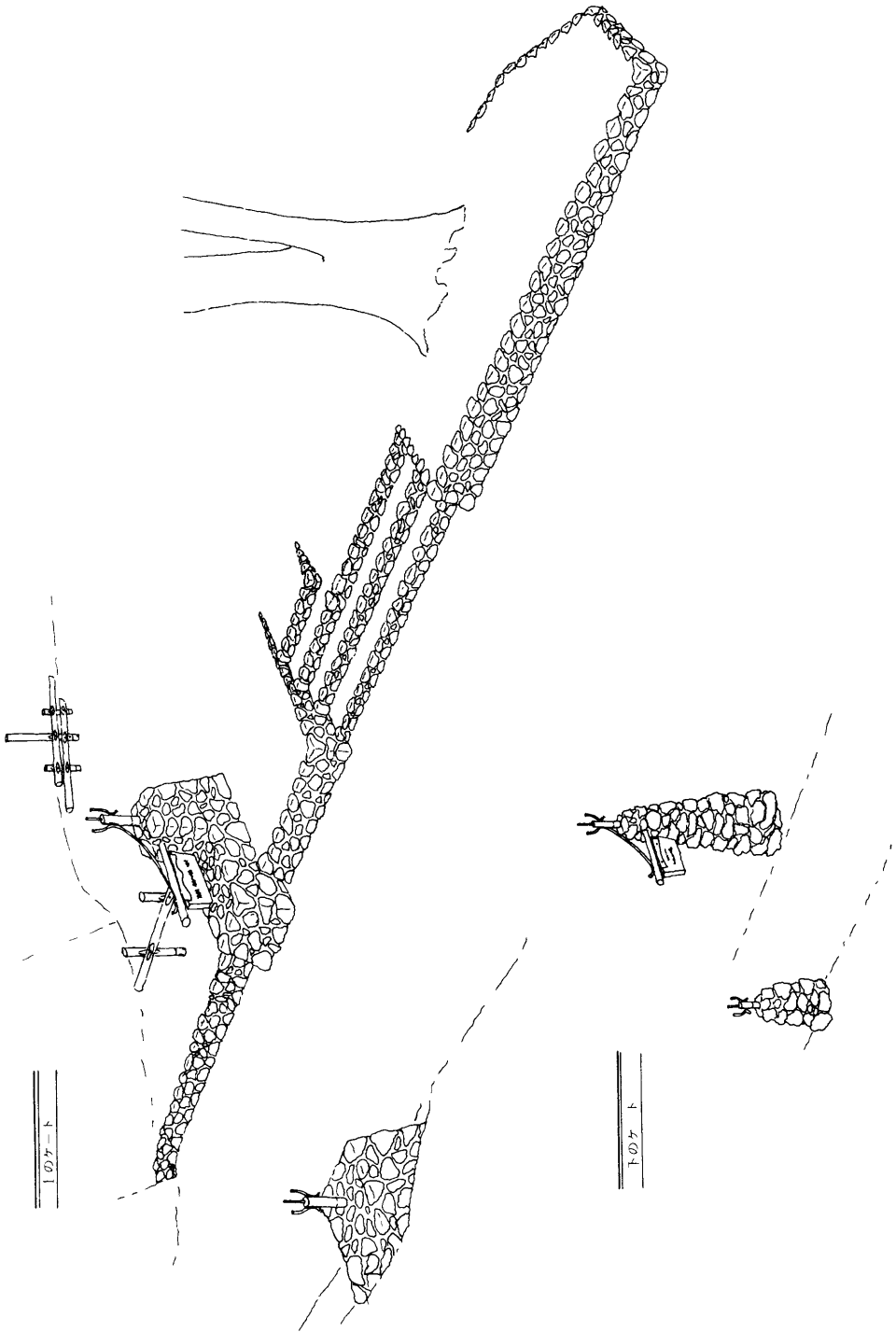


図-3 上のゲート平面図 S. 1:200

